

合同会社自然と発達 サンシャインキッズ 評価について

第三者委員
北海道総合福祉研究センター

I 福祉サービスの基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。

a：ホームページに掲載、パンフレットに掲載しています。

毎日のミーティング、毎週のミーティング・ケース会議等で常に周知されている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

①事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。

a：小樽市こども部会等会議に参加し、各種福祉計画の内容を把握している。

および、小樽市内の利用者数・利用者像、福祉サービスのニーズ、他事業所の定員充足度等の情報を最新のものとして把握している。

毎月税理士により事業所の収支バランス推移表を作成し、健全な経営状態か否かのチェックを行っている。

②経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。

a：毎週のミーティングで療育体制についての検討を行っている。

事業所の収支バランスについて、代表社員・児童発達支援管理責任者・管理者の三役で常に情報を共有している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

①中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。

a：2015年度5カ年計画策定済み。

理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。

②中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。

a：2019年度計画策定済み。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。

a：事業計画は策定時に職員に回覧している。

毎年2回程度のミーティング（年度末・年度始まり）において話し合いが行われている。

②事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。

a：新しい取り組みを始めるにあたっては、ご家庭向けのおたよりを通じて情報を提供、個別のご質問を受ける体制を整えている。

毎年年度末に、新年度を迎えるにあたって保護者様からのご要望等をうかがうためのアンケート調査を実施している。

4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取り組み

(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている。

①福祉サービスの質の向上に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している。

a：職員全体の研修を計画し、行っている。

資格取得のための研修受講の計画を立て、受講料金の全額を事業所負担としている。受講時間は、勤務時間としている。

自己評価を行っている。職員、保護者による回答をホームページで公表している。

ミーティングにおいて、自己評価の結果について討論する場を設けている。

②評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。

a：自己評価の結果を受けて職員間で討論した内容を、次年度の活動計画案立案の際の参考にしている。

II 組織の運営管理

1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。

①管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。

a：当事業所の管理体制は、代表、児童発達支援管理責任者、管理者の3名体制である。この3名で事業の運営を担っている。（以下、「三役」という）経営における最高責任は、代表にある。

現場における最高責任は、児童発達支援管理責任者にある。
管理者は、児童発達支援管理責任者を補佐する役割として位置する。
現場の統括は、三役が互いに協力しながら行っている。
事務的作業は、三役の指示の元、事務職員が行っている。
最終的な判断は、代表の決裁による。

②遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。

- a：児童福祉法等の法令およびガイドラインに則って業務にあたっている。
新たに振興局等から出される解釈等については、職員間で情報を共有すべく回覧している。
申し送り、ミーティング等の機会に、必要に応じて代表から職員へ法令解釈の説明がなされている。

(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

①福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取り組みに指導力を発揮している。

- a：三役は、常に研鑽の意欲をもっている。
全職員は、療育後の記録の時間を特に大切な情報交換・情報共有の場と認識している。当日の療育で起こった問題については極力当日のうちに解決することを目指して意見交換を行っている。三役は、迅速な対応を心がけている。
万が一事故が起こった場合には、可能な限り早く対処することを心がけている。

①経営の改善や業務の実効性を高める取り組みに指導力を発揮している。

- a：三役は、常に職員からの意見を共有すること心がけている。
三役は、職員同士が「話しやすい環境整備」を意識している。
代表は、職員一人ひとりの心の有り様を把握することを強く望んでいる。そのために顔を見ながらの対話を重要視し、非審判的態度で傾聴することを心がけている。

II

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の大切が整備されている。

①必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確率し、取り組みが実施されている

- b：これまでのところ、職員の人伝手に雇用が確保されてきており、人材不足を感じることはあまりなかった。

2018 年末より急に退職者が出て、必要な人材にやや不足を感じている。
そこで、パート職員を常勤に登用することにより人材は確保された。
これからの労働人口減少を考慮すれば、今後は人材確保の方策をとるべきと思われる。

②総合的な人事管理が行われている。

a : 「療育を担当するプロフェッショナル」としての専門性を追求している。
キャリアパス制度を活用している。
処遇改善について、人事評価に基づき賞与を支給する仕組みを確立している。
パート職員についても正職員と同様に人事評価を行い、賞与を支給している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

a : 子育て中であっても、介護中であっても働きやすいように、職員全員で協力し合う組織としてまとまっている。
年次有給休暇は、時間単位で取得できるようになっている。
業務に支障のない範囲であれば、子連れ出勤および親連れ出勤を可能としている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確保されている。

①職員一人ひとりの育成に向けた取り組みを行っている。

a : 個別に研修計画を策定している。
代表が適宜個別に面談を行い、職員のモチベーションの維持と向上に働きかけている。
課題が残る職員については、代表がメール等により個別に指導・助言を行っている。もしくは業務管理遂行表等の作成により、業務管理を行い改善を促している。

②職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。

a : 代表は、職員一人ひとりについて、持ち合わせている能力・技量を適切に評価すべく努力している。
更には、身につけていきたい能力について期待を込めてモチベーションの確立に向けてのアドバイスを行っている。
年間を通しての講義・研修を専門家に依頼して、系統立てて理論を学ぶ機会を設けている。

③職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。

a：職場内研修は、全職員の出席が原則である。

職場内研修後には、講師を囲んで昼食会を開き、ざくばらんに質疑応答出来る場を意図的に設けている。

外部研修に参加する職員については、交通費等の支給を行っている。

自由参加の研修に出席する職員については、最大限のシフトの配慮を行っている。

(4) 実習生の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について大切を整備し、積極的な取り組みをしている。

a：毎年、専門学校から保育に関する実習生を受け入れている。

介護分野の専門学校生の実習を、ボランティアとして受け入れている。

過去には、同業者から新規開設を控えて管理者を務める予定の者を3ヶ月間住み込みで実習生として受け入れた。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取り組みがなされている。

①運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。

b：ホームページを活用している。

事業所パンフレットを活用している。

小樽市近郊のデイサービスセンターパンフレットを活用している。

自己評価・第三者委員の評価をホームページで公表している。

予算・決算等財務状況については、公表していない。

②公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みが行われている。

a：事務・経理・取引等については、必ず複数人でのチェックがなされる体制が確立している。

税理士により、現金出納関連・請求と報酬等が毎月確認されている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。

①利用者と地域との交流を広げるための取り組みを行っている。

a：春から秋にかけて、デイサービスセンター前の公園で自由遊びを繰り広げる際に、地域の子供達との交流を意識している。

土曜日午後の放課後等デイサービスの際には、公共交通機関等を積極的に利用して、社会性を身につけることを念頭におき、かつ地域の人々との交流を意図している。

②ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。

a：ボランティアの受け入れ窓口は、代表の役割である。

専門学校生・大学生のボランティア活動については、学生の学びを目的とする比重が大きい。かつ、療育を必要とする子ども達にとっては社会性の獲得やコミュニケーション能力の向上等を期待している。なにより、発達障害や自閉症の社会的認知が進むことを願っている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。

a：役所・相談支援事業所・学校・幼稚園・保育所等と連絡を密にし、情報交換・共有することに最大限の努力をしている。

当事業所からの発信を重要視している。

小樽市こども部会・担当者会議・モニタリング等の機会には必ず出席している。

(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。

①福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。

c：長期目標として設定しているが、課題が多く、現時点では取り組みがなされていない。

②地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。

c：長期目標として設定しているが、課題が多く、現時点では取り組みがなされていない。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

①利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。

a：毎週のミーティング・ケース会議等では、常に利用者本位の視点から討論がなされている。

虐待予防の研修等を通じて、職員間で認識の一致を図る努力をしている。

②利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。

- a：誓約書（入職時・退職時）にサインをすることにより、すべての職員は個人情報保護の意味合いを認識する機会を得て職務にあたっている。
ミーティング・ケース会議等で使用するすべての資料について、個人を特定できる情報は一切記載していない。
個別記録について、他児・スタッフの名前はイニシャルで表記している。
外部に情報は持ち出さない・持ち出させないを徹底している。

(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。

- a：利用児童と保護者に対する説明は、個別に丁寧に行っている。
見学・体験等の希望には最大限の対応をしている。
ホームページ・パンフレット等を活用している。

②福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。

- a：契約書・重要事項説明書に加え、手書きの説明文書・図等を活用している。
利用児童・保護者等の質問については、当日中の返答を心がけている。
意思表示が難しい利用児童については、できるだけ感情表現を汲み取るべく最大限の努力をほらい、その情報を職員間で共有している。

③福祉施設・事業所の変更や家庭への意向等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。

- a：他事業所との連携を図り、情報交換・共有に努めている。
家庭との連携のため、連絡ノートを活用している。また、必要な児童については、学校とも連絡ノートを活用している。
移動支援サービスを利用している児童については、移動支援サービス担当職員との直接の引き継ぎを必ず行っている。
卒園・卒業の利用児童と保護者については、その後も相談窓口として対応することを伝えている。

(3) 利用者満足の向上に努めている。

①利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取り組みを行っている。

- a：自己評価の保護者向けアンケートを年1回以上行っている。

連絡ノートを活用している。

相談支援事業所相談員等と連携を密にし、保護者の要望等の把握に努めている。
半年に一度程度、保護者と児童発達管理責任者との面談の機会を設けている。

(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。

a : 苦情解決の体制が整っている。

苦情解決の体制について、重要事項説明書等で保護者に周知している。
苦情処理したものは、記録・保管し、かつ職員間で共有している。

② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。

a : 利用児童については、誰に相談してもよいことを伝えている。

相談内容は、秘密が守られることを伝えている。
保護者については、苦情相談窓口を明示している。

③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

a : 相談・意見を受けたときは、直ちに代表に連絡することを徹底している。

当日中に解決に向けて動き出すことを徹底している。
保護者全員に伝えるべき事案の場合は、至急おたよりにてお知らせしている。

(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取り組みが行われている。

① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

a : リスクマネジメントに関する責任は、代表が担う。

事故発生時の対応マニュアルが整備されている。
事故発生後は、直ちに再発防止策を協議し、かつ振興局に報告している。

② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取り組みを行っている。

a : 感染症対策については、学校に準ずる。

職員のインフルエンザ予防接種について、補助金を支給している。

③ 災害時における利用者の安全確保のための取り組みを組織的に行っている。

a : 災害時マニュアルを整備している。

サービス継続の可否決定については、学校に準ずる。
消防署・警察と、定期的に情報の共有をしている。

2 福祉サービスの質の確保

(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

①提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。

a：長期休暇中の療育および児童発達支援の療育等について、計画書を作成して標準的な実施方法について職員に提示している。

職員が入職した場合、新人研修を行い、療育の標準的な実施方法について指導している。

毎日の療育後の記録の時間を利用して、標準的な実施内容について改善・修正を検討している。

ミーティング等の記録を保管している。

②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。

a：毎日の療育後の記録の時間を利用して、標準的な実施内容について改善・修正を検討している。

ミーティング等会議において、常に討論できる雰囲気がある。

(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

①アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。

a：利用児童一人ひとりについて担当職員が配置され、半年に一度個別支援評価と計画策定のためのケース会議を、原則職員全員出席で行っている。

評価に際しては、半年間の療育記録を参考に原案を作成している。

課題がある利用児童については、ミーティング等会議で適宜討論されている。

②定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。

a：少なくとも半年に1回、個別支援の評価と計画策定のためのケース会議を行っている。

ケース会議は、全職員出席を原則としている。

完成した個別支援計画は、回覧される。

(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

①利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。

a：個別支援計画は、全職員が閲覧できるよう、職員室内に保管している。
毎日療育終了後に個別記録を書いている。
記録は、全職員が閲覧できるよう、職員室内にファイリングして保管している。
職員は、当日の療育担当児童について前回通所時の記録を読み込んでから当日の療育にあたっている。

②利用者に関する記録の管理体制が確立している。

a：記録は、鍵のかかる部屋に厳重に保管されている。
2年が過ぎた記録は、別室書庫に厳重に保管されている。
入職した職員については、新人研修において記録の書き方、保管の仕方、個人情報保護の観点からの留意事項等を指導している。
全職員は、誓約書（入職時・退職時）において、記録の重要性を理解した旨誓っている。